

＜前ページから＞では犬達の置かれている状況に対して、擁護の術がありません。動物の保護を行なっている以上、保護された動物には「保護」と呼べる対応がなくては、動物にとって悪環境となってしまいます。如何に、人間が寝る間を惜しんで世話をしても動物にとっては与えられたものが全てです。また、動物たちは「動物の保護及び管理に関する法律」で守られていますので、個人の所有物ではあってもその扱いが個人に任されたものではありません。保護施設である以上、健康管理と不妊去勢手術は急務であると考えます。また、保護されたものが、せめても個体管理されなければ、保護施設とは呼べないのではないかと考えます。全頭の奉仕手術等を行なう場合「しおさいの里」に収容されている犬達にとって無駄な痛みにならないよう、また、ボランティアで手術を行なって下さる先生の「徒勞」とならぬようにしなくてはいけないと考えております。

お忙しい中お話し合いの時間を取るよりも、私達の申し出の手術を承諾される場合の二つの条件をお伝えさせていただくことに致します。

1) 現在の収容頭数以上増やさず、個体管理をすることをお約束下さい。

→今回、全頭の手術を行なったとしても、次々と犬を収容されるのでは、何ら問題の解決にはなりません。また、犬同士のケンカ・脱走・病気・死亡等々の個体管理がなされていなければ、手術後の経過を見ることができません。不妊去勢手術は、繁殖を止めることのみならず、今後その犬達が集団生活の中で少しでも過ごしやすいようにする意味も含まれています。

2) 現在の頭数では、上記のことが不可能である場合、私達、動物愛護・保護団体や行政機関との協議の上、合意した内容で対処することをお約束下さい。

私達、動物保護団体がかかわることに対して、嫌悪感をお持ちのように感じました。しかし、殺されていく犬猫に対して悲哀の感を同じように持ち、なんとか少しでも幸せにしてやりたいとお考えであれば、自分の手で保護した犬達が短命であったり、病気やケンカで死亡したりすることを決して善とはしてはいらっしゃらないと思います。1日が24時間しかないように、一人の人間にできる事柄の範囲は決まってしまうと思います。先日お伺いしたときに、貰われていくのは子犬が週2～3頭と聞きました。しかし、成犬でも里親探しに力を入れれば貰い手は見つかります。保護した犬達に確実な幸せを与えるようにしてゆくことが本多さんの本当のお気持ちであるならば、今回の申し出をお受け頂けると信じております。大変に恐縮ではございますが、お受け取り後10日以内にご返答頂きたく存じます。

---

この公開書簡は、昨年11月中旬に送付しました。しかし、今なお、なんのご返事もいただけていません。それどころか、「本多氏は金策に走り回っていて、しおさいの里に近づけない状態だ」と聞いています。またもう一人の渡辺氏も「年末に福島県の郷里に帰って以来顔をみせていない」そうです。ご承知のように、日野・動物たちの会は『本多は動物愛護とは裏腹に寄付金集めと動物虐待を行なっている、1日も早く閉園させるべきだ』と命懸けで告発・指弾しています。私達もその見解に同意し、1月22日所轄の八日市場市保健所に犬たちの命と健康の保護を要請し、動物たちの会と連携して、対応をいよいよ具体化したいとおもっています。